

第7回統合イノベーション戦略推進会議議事録

1. 日時 令和2年6月26日（金） 9：36～9：56

2. 場所 総理官邸2階大ホール

3. 出席者

議長	菅 義偉	内閣官房長官
議長代理	竹本 直一	内閣府特命担当大臣（科学技術政策）
副議長	衛藤 晟一	内閣府特命担当大臣（海洋政策）
構成員	高市 早苗	総務大臣 (寺田 副大臣代理出席)
同	森 まさこ	法務大臣
同	茂木 敏充	外務大臣 (尾身 大臣政務官代理出席)
同	麻生 太郎	財務大臣
同	萩生田光一	文部科学大臣
同	加藤 勝信	厚生労働大臣 (小島 大臣政務官代理出席)
同	江藤 拓	農林水産大臣
同	梶山 弘志	経済産業大臣
同	赤羽 一嘉	国土交通大臣
同	小泉進次郎	環境大臣
同	河野 太郎	防衛大臣 (岩田 大臣政務官代理出席)
同	田中 和徳	復興大臣
同	西村 康稔	経済再生担当大臣
同	武田 良太	国家公安委員会委員長
同	北村 誠吾	内閣府特命担当大臣（地方創生・規制改革）
同	橋本 聖子	東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 担当大臣
	西村 明宏	内閣官房副長官
	岡田 直樹	内閣官房副長官
	杉田 和博	内閣官房副長官
	和泉 洋人	内閣総理大臣補佐官

4. 議題

- (1) 新型コロナウイルス感染症を踏まえた科学技術・イノベーション政策及び統合イノベーション戦略2020について
- (2) バイオ戦略2020（基盤的施策）について
- (3) AI戦略2019フォローアップについて
- (4) 量子技術イノベーション会議について
- (5) スタートアップ支援の強化について
- (6) グリーンイノベーション戦略推進会議について

5. 資料一覧

- 資料1-1 新型コロナウイルス感染症を踏まえた科学技術・イノベーション政策の方向性
- 資料1-2 統合イノベーション戦略2020（素案）（概要）
- 資料1-3 統合イノベーション戦略2020（素案）
- 資料2-1 バイオ戦略2020（基盤的施策）（案）のポイント
- 資料2-2 バイオ戦略2020（基盤的施策）（案）
- 資料3-1 「AI戦略2019」フォローアップ（概要）
- 資料3-2 「AI戦略2019」フォローアップ
- 資料3-3 「AI戦略2019」フォローアップ（別紙）
- 資料4 量子技術イノベーション会議について
- 資料5 世界に伍するスタートアップ・エコシステム形成に向けて
- 資料6 グリーンイノベーション戦略推進会議について
- 資料7 農林水産研究イノベーション戦略2020（農林水産大臣提出資料）

6. 議事

【竹本科学技術政策担当大臣】

それでは、ただいまより第7回統合イノベーション戦略推進会議を開会いたします。

一つ目の議題は「新型コロナウイルス感染症を踏まえた科学技術・イノベーション政策について」です。

まず、今後の課題と方向性についてお手元の資料1-1に沿って説明いたします。

1ページを開いてください。新型コロナウイルス感染症の影響により、経済・社会構造の見直しや新たな国際秩序への模索が始まっています。新しい日常を定着させるとともに、持続的かつ強靱な経済産業構造を構築するためには、科学技術・イノベーションが不可欠です。スピード感や危機感の不足を反省し、文理融合の下、従来の活動の根本的変革に向けたSociety 5.0の本格的実装展開を積極的に推進いたします。そして、その牽引役となるスタートアップの抜本的な支援を強化していきます。米欧中ではポスト・コロナを見据えた積極的なイノベーションへの投資が進められており、我が国も経済回復の源泉となるイノベーションへの投資を官民一体となって進めてまいります。

2 ページを御覧ください。新型コロナウイルス感染症を契機としてデジタル化の更なる加速が求められております。この機に社会構造変革を達成するため、公的部門のデジタル化、分野を越えたデータ連携活用が行われるようなルール、環境の整備、B e y o n d 5 G などデジタルインフラへの集中的な投資などを行ってまいります。

3 ページを御覧ください。世界的に研究活動のデジタル転換が一気に進展しました。特にビッグデータ収集とスーパーコンピュータ、A I 活用を掛け合わせた研究が圧倒的なインパクトをもたらす可能性が出てきました。データや研究成果の共有、活用は重要な国家戦略となりつつあり、我が国としてデータ駆動型研究の加速、国際協力によるデータの共有と研究の推進などに戦略的に対応してまいります。

次に4 ページを御覧ください。各国のポスト・コロナの経済回復への取組と強靱かつ持続的な社会づくりへの投資が一体化する中、地球温暖化対策等への投資も例外ではありません。後ほど経済産業大臣から説明していただきますが、革新的環境イノベーション戦略の早期具体化を図ります。

5 ページを御覧ください。コロナ禍により現代社会の様々な脅威が浮き彫りになり、国家の安全保障環境は厳しさを増しております。想定外の脅威への対応のため、安全・安心の確保に向けたシンクタンク機能の体制づくり、研究インテグリティの確保を初め、安全・安心の実現に向けた科学技術・イノベーションの方向性の早急な具体化に取り組みます。

次に6 ページを御覧ください。ポスト・コロナ時代に向けてバイオ、A I、量子技術、マテリアル、宇宙などの我が国が持つ最先端技術の強みを維持、強化していくことは急務です。後ほど取り上げますが、これらの主要分野を戦略的に推進してまいります。

以上のような方向性に沿って我が国の科学技術・イノベーションの力を強化し、ポスト・コロナ時代をリードしていく考えです。

次に、統合イノベーション戦略2020素案について、資料1-2に沿って説明いたします。

今年度は特に新型コロナウイルス感染症への対応について大きく取り上げています。先ほど申し上げました方向に基づき、政府として重点的に取り組むべき科学技術・イノベーションに関する施策をまとめております。また、先の国会で科学技術基本法の25年ぶりの本格的な改正案を提出し、可決成立となりました。来年度から始まる次期科学技術・イノベーション基本計画は改正の趣旨を踏まえ、更に検討を深めてまいります。

二つ目の議題は、「バイオ戦略2020（基盤的施策）について」です。資料の2-1に沿って説明いたします。

2 ページをお開きください。バイオ戦略2020のうち、2030年の市場規模目標を含む市場領域ロードマップについては、今般の感染症による経済情勢の変化を見極め、産学官による検討を継続し、今年の冬を目途に取りまとめることといたしております。一方、感染症への対応、終息後の迅速な経済回復におけるバイオエコノミー推進の重要性に鑑み、バイオ戦略2020（基盤的施策）を策定することといたしました。感染症拡大の終息に向けた研究開発の推進、ガイドラインの策定などを通じた市場規模に向けたデータ連携促進、国内外から人材投資を呼び込み、世界からイノベーションハブとして認知されるグローバルコミュニティや地域コミュニティの形成等に遅滞なく取り組んでまいります。

次に、三つ目の議題は「AI戦略2019フォローアップについて」でございます。資料3-1に沿って説明いたします。

本フォローアップは昨年策定いたしましたAI戦略2019の進捗確認と今後の取組について、AI戦略実行会議を開催し取りまとめたものです。進捗に関しましては8割強の取組が計画どおり進められております。今年度以降につきましては、従来の取組に加え、ポスト・コロナにおけるデジタル社会の進化に向けて信頼できるAIに関する研究開発、社会実装の重点分野のものづくりの追加、情報通信環境の整備等について各府省庁の連携の下、しっかり取り組んでいくこととしております。

次に四つ目の議題でございます。四つ目の議題は「量子技術イノベーション会議について」です。資料4に沿って説明いたします。

本年1月、量子技術に関する初の国家戦略として量子技術イノベーション戦略を取りまとめました。今後は産学の有識者に政府の関係者を加えたメンバーにより、現行の有識者会議を発展的に改組し、実効性を確保してまいります。重点的な技術開発や世界に顔の見える拠点形成、国際標準化などを強力に推進すると共に、着実にフォローアップを行います。

次に五つ目の議題は、「スタートアップの支援の強化について」です。資料5-1を御覧ください。

1ページを御覧いただきたいと思っております。イノベーションの担い手となるスタートアップが次々と育っていくエコシステムを形成するため、関係省庁と連携し七つの戦略を実施しております。また、現在コロナ禍への対応として資本性ローンや官民ファンドなどでスタートアップの資金繰り対策を実施しています。拠点都市につきましては17の都市から応募があり選定中です。これまで取り組んできてエコシステム形成を拠点都市選定を契機に大きく進めていくためには、支援施策を更に強化し加速することが必要であり、新たにスタートアップ支援パッケージを策定すべく検討を進めております。

その骨子は2ページのとおりでございます。すぐれたスタートアップを創出、育成し、世界へとつなげるため、関係省庁には一層の御協力をお願いいたします。本件については萩生田文部科学大臣、梶山経済産業大臣からそれぞれ御発言をお願いいたします。梶山大臣におかれては次の六つ目の議題、グリーンイノベーション戦略推進会議についての御説明も併せてお願いいたします。よろしく申し上げます。

【萩生田文部科学大臣】

文部科学省としては新型コロナウイルス感染症の影響で投資の冷え込み等も予想される中、困難を乗り越えて自ら行動を起こし、社会の変革に対応した新たな価値を生み出していくアントレプレナーシップを持った人材の育成が重要であると考えております。引き続き関係省庁と連携協力しながら、拠点都市におけるアントレプレナーシップ教育の強化や大学発ベンチャーの創出支援を進めてまいります。

【竹本科学技術政策担当大臣】

次に経産大臣、申し上げます。

【梶山経済産業大臣】

私の方から（５）（６）についてお話をさせていただきます。

経産省ではスタートアップ支援パッケージ案に記載されている研究開発型ベンチャーの基礎研究と事業化の空白を埋めるギャップファンドを通じた資金供給支援、オープンイノベーション促進税制の創設、スタートアップ育成支援プログラムである J - S t a r t u p の選定等を通じてスタートアップの育成や大企業との連携促進、グローバル展開の後押しに取り組んでいます。また、新型コロナウイルスの影響によりスタートアップに関しても足元の資金繰りが課題になっています。今後、ギャップファンドの強化や J I C のベンチャーファンドの早期立上げに取り組んでまいります。また、各府省の支援機関など関係者の連携を強化する新たな仕組みの検討を関連省庁と連携し加速化してまいります。

次にグリーンイノベーション戦略推進会議について御説明いたします。

資料 6 の 1 ページを御覧ください。今年 1 月、吉野彰先生をトップとする産総研ゼロエミ国際共同研究センターを設立いたしました。既に 3 2 件の海外連携プロジェクトの組成に成功しております。6 月には東京湾岸をゼロエミ技術のシリコンバレーにすべく、1 0 0 者程度が参加する官民協議会ゼロエミベイを立ち上げました。また、広島県大崎上島や北海道苫小牧にはカーボンリサイクルの実証研究拠点を整備し、先進的研究開発を開始します。さらに、経団連と連携しゼロエミに戦略的に取り組む企業の見える化を進め、グリーンファイナンスを推進してまいります。

資料 6 の 2 ページを御覧ください。ビヨンド・ゼロに向けたイノベーションを更に加速化するため、本分野における府省横断の司令塔としてグリーンイノベーション戦略推進会議を 7 月 7 日に立ち上げます。併せて技術動向や施策の進捗についてきめ細かく検討を行うためのワーキンググループも設置します。

気候変動問題は世界全体で取り組むべき課題です。今後、関係府省と連携しイノベーション確立までの道筋を検討してまいります。日本の取組につきましては 1 0 月に開催予定の I C E F 、 R D 2 0 等の国際会議を通じて世界に発信をしてまいります。

【竹本科学技術政策担当大臣】

それでは、関係大臣からの御発言をお願いいたします。

まず最初に萩生田文部科学大臣、お願いします。

【萩生田文部科学大臣】

新型コロナウイルス感染症等の難局を乗り越えるため、政府一体となって我が国の科学技術・イノベーションを推進していくことが重要と考えます。文部科学省としては、感染対応能力の強化や研究現場への支援に全力で取り組むとともに、研究力向上の源泉である博士課程学生を含めた若手研究者の支援を強化していく所存です。バイオ、A I、量子、環境エネルギーの各戦略については、関係府省と連携して着実に進めてまいります。また、新たに戦略分野とされたマテリアルは、これまで文部科学省と経済産業省で検討してきており、今後、戦略の策

定に向け、内閣府はじめ関係府省との協力を進めてまいります。安全・安心に係る取組についても御説明がありましたが、文部科学省としては、技術流出防止のみならず、研究成果の創出・育成についてもバランスよく進めていくことが重要であると考えております。

【竹本科学技術政策担当大臣】

次に江藤農林水産大臣、お願いします。

【江藤農林水産大臣】

農林水産研究イノベーション戦略2020の策定、公表について御報告いたします。

農林水産省は本年3月末に閣議決定された食料・農業・農村基本計画に則して本戦略を本年5月に策定、公表しました。本戦略では重点分野としてスマート農業、環境、バイオの3分野で研究計画等を示しております。中でもスマート農業は、新型コロナウイルス感染症による労働力不足対策として、実証事業を開始しております。今後、イノベーションを早期実現し農林水産業の発展に努めてまいります。

【竹本科学技術政策担当大臣】

次に梶山経済産業大臣、お願いします。

【梶山経済産業大臣】

コロナ禍による経済の落ち込みでイノベーション投資の低迷が懸念されています。ポスト・コロナに向けた投資を強化する他国に遅れないよう、質、量の両面でイノベーション投資を充実させます。質の面ではスタートアップ支援の強化を進め、またオープンイノベーションを促すべく企業、大学などの連携を強化します。量の面では官民で日本全体の研究開発投資額を十分に確保するための投資促進に取り組みます。また、今年5月の自民党の提言も踏まえ、イノベーション政策のうち経済安全保障に係るものは竹本大臣の下で政府が一体的に取り組むことが重要です。経済産業省も議論に貢献をしております。

【竹本科学技術政策担当大臣】

次に小泉環境大臣、お願いします。

【小泉環境大臣】

環境省としては、今月気候危機宣言をしましたが、今回、統合イノベーション戦略2020素案において、気候危機とも言われる状況を明記して、反転攻勢と社会変革に向けて科学技術・イノベーションの力で進めるべき事項として、脱炭素社会への移行を明確に位置付けていただきました。竹本大臣のリーダーシップに心から感謝申し上げます。

また、経済社会の再設計、リデザインの必要性についても記載いただいたことは大変意義深いことであります。コロナ危機と気候危機という二つの危機を克服するためには、脱炭素社会への移行、循環経済への移行、分散型社会への移行、この三つの移行によって新たな経済社会

の再設計が必要だと考えています。

環境省としても、気候危機時代におけるイノベーションを創出・実装して、戦略の推進に積極的に貢献していきたいと考えています。

【竹本科学技術政策担当大臣】

次に西村経済再生担当大臣、お願いします。

【西村経済再生担当大臣】

感染症拡大への対応と経済活動の段階的引上げ、足元からの取組も含めた新たな日常を実現していく中で、科学技術・イノベーションの役割は大きく、本日取り上げられましたAIはじめ多くの戦略分野の取組、また革新的イノベーションを生み出すスタートアップの活躍は重要であります。正に新しい生活様式の具体化や新型コロナ対策を通じ得られたデータや知見を活用して対策を進める観点でも第二次補正予算で計上しました予算14.4億円を活用しまして、AIシミュレーション等を使ったプロジェクトを推進していきたいと思っております。関連するプロジェクト間の連携が必要であり、御協力をお願いしたいと思います。

また、デジタル化、ロボット化、リモート化、無人化など新たな社会の構築に挑戦するスタートアップ、それからワクチンや治療薬の開発に取り組むスタートアップ、これらを第二次補正で手当てしました資金供給、JIC、REVIC等約6兆円を活用し、しっかりと支援をしていきたいというふうに考えております。来月半ばを目途に取りまとめます骨太方針、成長戦略実行計画に向けて関係大臣と共に引き続き連携してまいりたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

【竹本科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは、統合イノベーション戦略2020素案及びバイオ戦略2020（基盤的施策）につきまして、原案のとおり了承してよろしいでしょうか。

（異議なし）

【竹本科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。原案のとおり了承させていただきました。

本日御議論いただいた統合イノベーション戦略2020素案につきましては、今後与党との調整を経て、来月の総合科学技術・イノベーション会議答申及び閣議決定に向けて所要の手続を進めてまいります。

それでは、最後に菅官房長官より御挨拶を頂きたいと思っております。プレスが入りますので、お待ちください。

（プレス 入室）

【竹本科学技術政策担当大臣】

それでは、菅官房長官、お願いいたします。

【菅官房長官】

本日は新型コロナウイルス感染症を踏まえ、我が国の取るべき科学技術・イノベーション政策の方向性を議論いたしました。

まず、「統合イノベーション戦略」の検討状況の報告がありました。感染症などの高まる脅威への対応、社会課題の解決、マテリアルなど競争力の源泉となる研究力強化のため、竹本大臣は、危機感とスピード感を持って戦略を取りまとめていただきたいと思います。

また、さきの国会で科学技術基本法が25年ぶりに改正されましたが、基本法に基づく次期基本計画は、Society 5.0の本格的実装を進め、コロナ後の新時代をリードするものとなるよう検討を進めていただくようお願いいたします。

さらに、「グリーンイノベーション戦略推進会議」、「量子技術イノベーション会議」の設置について報告を受けました。世界を凌駕する成果を打ち出せるように、環境戦略、量子戦略を迅速、確実に実行していただきたいと思います。

加えて、スタートアップ企業の支援拠点の選定と支援策検討の経過報告がなされました。徹底的な支援が行われるよう、関係大臣は一丸となって、資金面、制度面で万全の支援策を検討していただくようお願いします。

最後に、新型コロナウイルス感染症を踏まえた「バイオ戦略」を決定いたしました。感染症対策について研究開発を加速するとともに、競争力の鍵となるバイオデータ基盤構築を速やかに進めていただくようお願いいたします。

【竹本科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

プレスの方は御退席ください。

(プレス 退室)

【竹本科学技術政策担当大臣】

本日の議事は以上でございます。

本日の資料及び議事録は公表させていただきます。

以上で会議を終了します。ありがとうございました。

以上